

どきを編む ～宮崎県の縄文土器～

数十万にのぼる言葉について、一つ一つ、膨大な用例を集め、それぞれの意味をはっきりさせていく作業を通して辞書を編んでいく。考古資料の年代は文様や形態、機能等の特徴から分類し変遷をたどり、出土層位の情報等から時間的・空間的な配列をして割り出していく。この2つの方法を積み重ねていくことで資料を年代順に編んでいく。この作業を編年と呼ぶ。編年を通して宮崎の縄文土器の変遷や特徴を読み解いて行く。

▶ 土器を編む ～土器の編年作業～

土器編年の作成には型式学的方法と層位学的方法とを駆使し、土器の前後関係や年代を配列する。また、科学的な年代測定や火山灰との関係から大まかな年代を得ることができる。編年作業がどう行われていくのか紹介する。

▶ 縄文土器の地域性 ～九州と宮崎の縄文土器～

1万年以上もの長い間作られてきた縄文土器は、あまりにもいろいろな形と文様があり、地域色に彩られている。豪華な装飾文様は見られないがより地域色の強い九州・宮崎を代表する縄文土器を紹介する。

▶ 宮崎県の縄文土器編年

縄文時代を草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期に分け、宮崎の縄文土器の変遷と土器の特徴を紹介し読み解いていく。

▶ 縄文時代のはじまりとおわり

旧石器時代から縄文時代へ、縄文時代から弥生時代へ… 宮崎のターニングポイントとなる遺跡や遺物を紹介する。

〔草創期の土器〕(実測図)
清武上猪ノ原遺跡

〔晩期の土器〕
布平遺跡

〔早期の土器〕
天神河内第1遺跡

〔前期の土器〕
柿ヶ迫遺跡
日南市教育委員会

〔中期の土器〕
下耳切第3遺跡

〔後期の土器〕
白ヶ野第2・第3遺跡

〔後期の土器〕
下弓田遺跡

〔晩期の土器〕
老瀬坂上第3遺跡

同時
開催

〔パネル展〕 地下を探る

地中レーダーによる最新成果をパネルにて紹介します。

シンポジウム 日本のGPRはどこまで到達したのか

日時：2019年2月16日(土) 13:00～16:00 場所：西都原考古博物館1階ホール

講師：Dean Goodman(GPR-SLICE)

亀井 宏行(東京工業大学)

金田 明大(奈良文化財研究所)

呉 炫徳(韓国国立文化財研究所)

村上 恭通(愛媛大学)

東 憲章(宮崎県立西都原考古博物館)

